

開講日	2009年4学期 木曜日 18:30-20:30	講義場所	東京慈恵会医科大学 西新橋キャンパス	医	技	保
				●	—	—
コーディネーター	名古屋市立大学大学院医学研究科 産科婦人科教授 杉浦真弓			※●:コア科目、○:選択科目		

科目概要および期待される成果	<p>【概要】少子化のすすむ日本において分娩数は減少しているが、ハイリスク分娩は増加している。日本の妊婦死亡率、新生児死亡率は世界中で最も低く、周産期医療レベルは極めて高い。このレベルを維持するため、分娩に関わる医師、看護師、助産師、救命師らがより高い知識と技術を身につけることを目的とする。</p> <p>【期待される成果】現在深刻な産婦人科医師・助産師不足である。また、20-30代産婦人科医師の70%が女性医師である。出産・育児によって休業した医師・助産師が現場復帰することは今後の日本の分娩を支える上で必須の対策である。最新産科医療を学び、産科の現場復帰を支援することを目標とする。また、助産師、看護師が超音波、モニターを学ぶことで不足する産科医を補うことができる。助産所の開設を促進する。さらに、病理学者、法医学者、麻酔科医師など産科に関わるが、学生以来分娩を学んでいない医師らにとっては専門技術のさらなる向上が期待できる。</p>
目標とする資格	育児・病気など休業後の医師、助産師、産科看護師の社会復帰、開業助産師支援など

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
基礎知識	1	分娩の基礎知識	正常分娩の進行や異常分娩の発生機序・対処方法について学ぶ。	4月9日	病院准教授 尾崎康彦 名古屋市立大学医学部
	2	妊婦の栄養の最近の考え方	飽食の時代である一方やせ女性が増えている現代において妊娠中の適切な栄養管理についてエビデンスに基づき概説する。	4月16日	分娩部准教授 鈴木佳克 名古屋市立大学医学部
	3	胎児超音波	妊娠初期の経膈超音波から胎児異常の見方まで、妊婦検診で必要な超音波技術について学ぶ。	4月23日	助教 金子さおり 名古屋市立大学医学部
	4	胎児心拍数モニタリングの読み方	胎児のwell-beingの診断と異常を把握するためにCTGの読み方を学ぶ。	4月30日	病院准教授 尾崎康彦 名古屋市立大学医学部
産科ガイドラインに基づく臨床	5	妊婦健診	いまどきの妊婦健康診断と妊娠中におこなう検査について学ぶ。	5月7日	病院准教授 尾崎康彦 名古屋市立大学医学部
	6	子宮筋腫と妊娠	妊孕性の温存を前提とした子宮筋腫の最新の治療方法と子宮筋腫合併妊娠の管理法について学ぶ。	5月14日	病院准教授 尾崎康彦 名古屋市立大学医学部
	7	不育症	流産、習慣流産、不育症	5月21日	教授 杉浦真弓 名古屋市立大学医学部
	8	陣痛の調節法	切迫早産の治療法や予定日超過への対処法を理解すること、陣痛のコントロール法について学ぶ。	5月28日	病院准教授 尾崎康彦 名古屋市立大学医学部
	9	症例から学ぶ	多胎妊娠・骨盤位	6月4日	助教 岡田英幹 名古屋市立大学医学部
	10	急遂分娩	吸引分娩、かん子分娩、帝王切開	6月11日	部長 村上勇 東部医療センター
ハイリスク	11	妊娠高血圧症候群	妊婦死亡の原因である胎盤早期剥離・前置胎盤、妊娠高血圧症候群について学ぶ。	6月18日	分娩部准教授 鈴木佳克 名古屋市立大学医学部
	12	大量出血	分娩時出血(子宮破裂、弛緩出血、頸管裂傷、子宮内反症)の鑑別について学ぶ。	6月25日	部長 岡田節男 瀬戸公立陶生病院
	13	ショック対策	ショックの早期診断、対策の実践を学ぶ。	7月2日	病院准教授 薊 隆文 名古屋市立大学医学部
最新知識	14	出生前診断	遺伝診療部が行っている遺伝カウンセリングの実際を学ぶ。	7月9日	講師 鈴木伸宏 名古屋市立大学医学部
	15	生殖医療の現状と問題点	女性の晩婚化に伴い不妊・流産が増加し、体外受精を含む生殖補助医療が日常的になっている。いま生まれている子どもの60人にひとり体が体外受精児である。技術の進歩に伴う問題点について学ぶ。	7月16日	教授 杉浦真弓 名古屋市立大学医学部